

愛媛県生涯学習センター所長賞 レポート部門
 「第39代横綱 前田山英五郎 ～つながる縁と恩～」
 愛媛大学教育学部附属小学校 第3学年 松前 凜

第39代横綱
 前田山英五郎
 ～つながる縁と恩～



愛媛大学教育学部附属小学校
 3年 松前 凜

〈第三十九代横綱前田山英五郎〉

前田山英五郎(1914～1971)
 大相もう第39代横綱。本名、森森金松。
 西宇和郡須来村喜木(現保内町)に生まれる。父圓太郎、母つゆ。十二人の兄弟の中で
 末弟の五男ほう、姉が三人、妹が四人もいた。
 金松の家は先祖代々大工を家ぎょうとして
 きたが、肝心の一家の大黒柱父圓太郎は大酒
 飲みで奴入の大羊は酒に変身し、圓太郎の体
 内から川へと流れていた。母つゆの細仕事に
 一家のその日の生活がかかっていた。つゆの

苦労はなみ大低ではなかつたが、つゆの大柄
 で丈夫な体とさ。草にも負けない強い性かく
 がそれを支えていた。

熱心な金比ら 信こう者である。たつゆが、金
 比らの金をとりに、金松と名づけた。

金松少年は幼いころから体格が良く、力も
 強かった。そのため、当せんなりゆきのよう
 にガキ大将になり、子どもにあるにもかかわ
 らず近所の女学校の生とをぼうで追い回すと
 いった話も残っている。そのため、近所の人

や学校になどにも避わくをかけていたようだ。
 「オラなんかどうせ五男坊。余りモンの用
 無しやが。」

と家にも面白くない金松はだんだん外
 であはれ回るようになり、いつしか兄弟や親
 ですら持てあますような少年になっていた。

そんな、金松だが少年時代の俳ゆう志願熱
 は相当なもので、一度は家の銭を持って家出
 し、さつえい所のある京と太秦をふりふらし
 たこともあった。

担任の安藤進(のちに竹田進)安藤進先生
 が大分におごい15さいで種吉定次(あきよし
 さだしる)の右の第三十五代横綱、偉大なる競
 葉山定次である。)という子どもがいて、今
 度東京へ行ってすもう取りになるので、金松
 もすもう取りにならないかとすすめるが、木
 人は俳ゆうになりたいため、すもう取りには
 なりたくなかつたようだ。

昭和3(1928)年、八幡浜に部屋一間
 を連れてじゅん業に来ていた3代目高砂親方